

島根の温泉診断

○高橋敏夫 岩田昭夫 安藤進一 林 秀樹
月森勝博 松原利直 加藤芳郎 山内靖喜

2000年からの継続的テーマであった県内温泉データの収集と解析結果がまとめた。

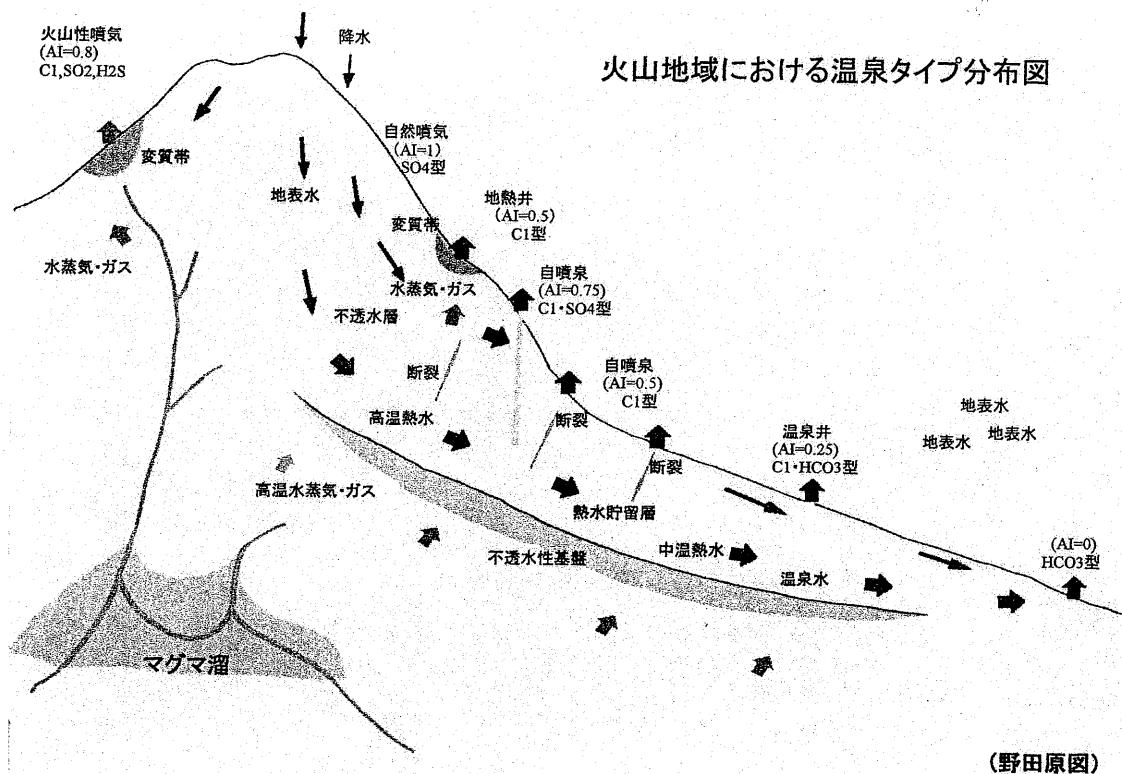
データ数量は、県内および一部隣接県を含めると約100か所である。このうち泉質解析には約50、地温解析には約40のデータを用いた。

県内の地下温度分布は、海岸側で高く、内陸側で低く、ほぼ海岸線に平行して伸びている。海岸側一帯では地温勾配が約4°C/100m、内陸側では2~3°C/100mである。中の海から松江にかけて5~6°C/100mの高温度帯が分布している。大山、三瓶山および津和野などでは、既存マップのごとき高温度帯の存在は確認されなかった。

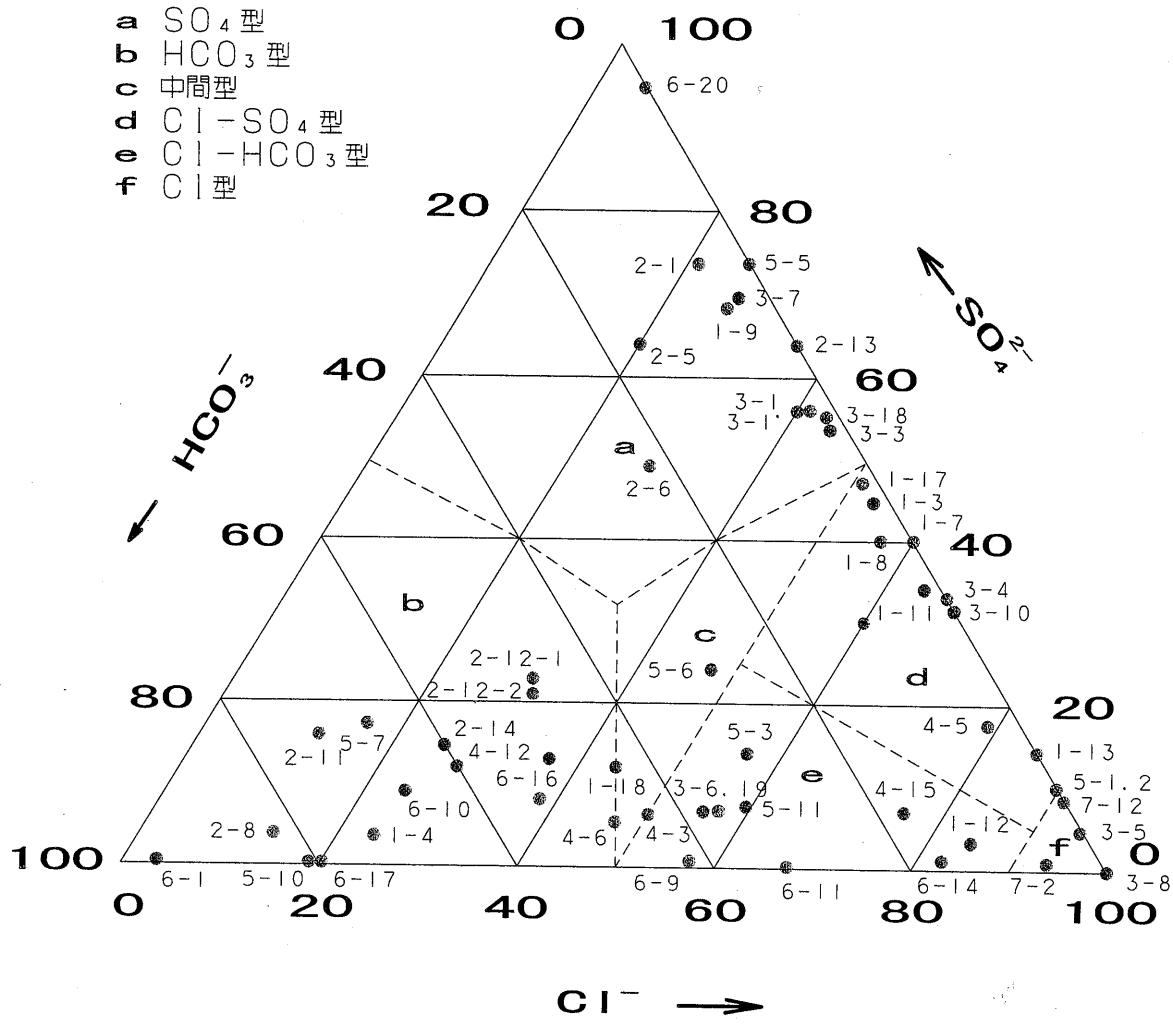
一般に、温泉の熱源を火山を中心とした熱構造に求めると、その地域の温泉の泉質分布は大略下図の様になる。そこで、得られたデータから主要成分含有比を求め、三角図やキーダイアグラムを用いて比較検討した結果、多くの知見が得られた。その記述には多くの紙数を要するので、ここではその一部を次ページの図表に示すにとどめることとする。

今回の解析結果で注目されるものの一つに、アニオンインデックス分布がある。ごく単純に言えば、主要陰イオン3成分の中で HCO_3^- よりも SO_4^{2-} と Cl^- 成分が多いほど、この値が高く1.0に近い値となり、火山性の熱源に近いことを示す、とされている。図のごとく、安来から広瀬、斐川、佐田にかけてAI値が0.7以上を示す地帯は何を意味するのか？キューリー点深度との相関で眺めると解釈できそうな現象である。

その他、純温泉学的な知見の他にも、温泉開発業務のシステム全般に関して多くのリコメンデーションが得られた。



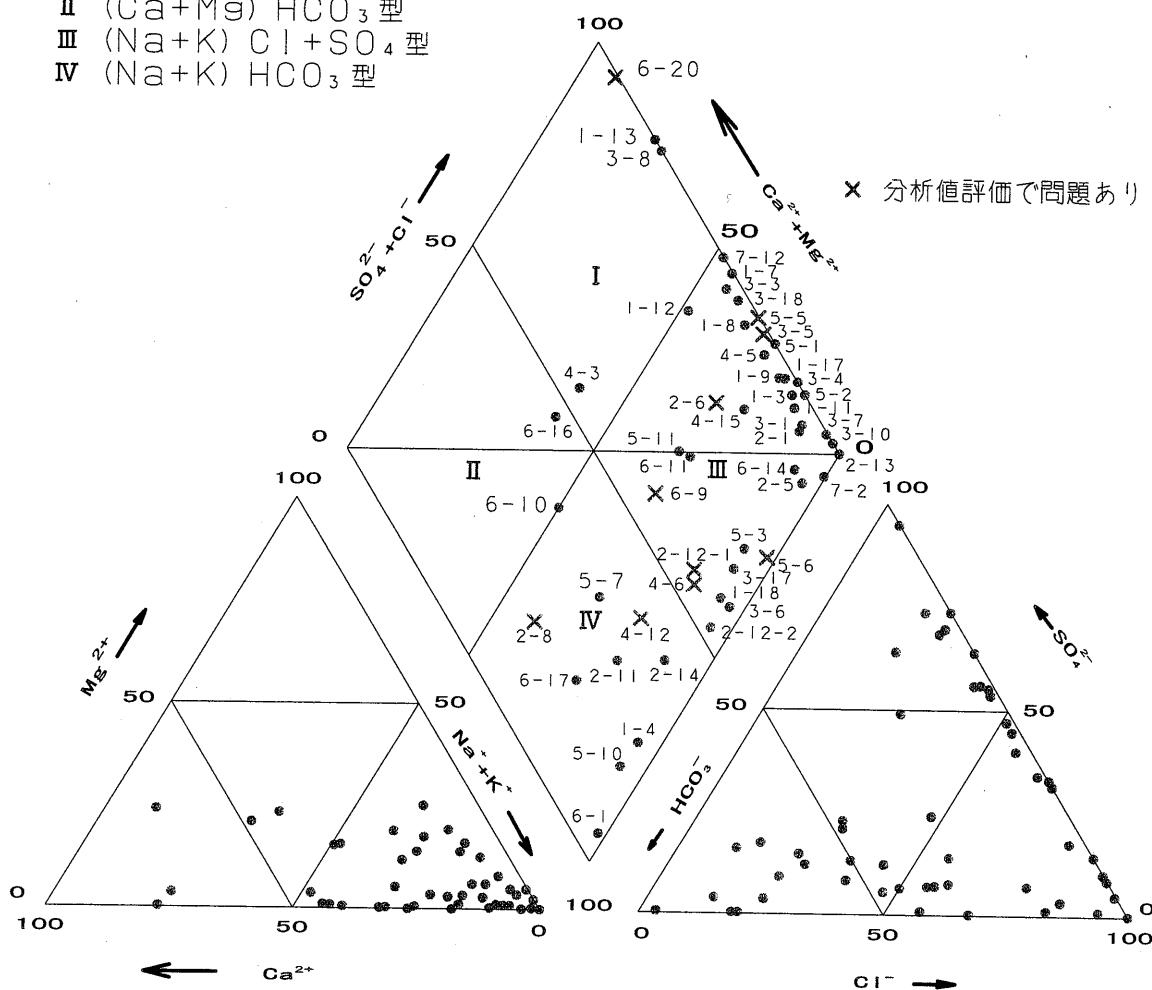
- a SO_4^{2-} 型
- b HCO_3^- 型
- c 中間型
- d $\text{Cl}^- - \text{SO}_4^{2-}$ 型
- e $\text{Cl}^- - \text{HCO}_3^-$ 型
- f Cl^- 型



(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
3. 嫁ヶ島	1. 玉造温泉	(1) 3. 池田温泉	1. 浜田	1. 美都温泉	
4. 松江	5. 海潮	1. 平成温泉	5. 温泉津	2. 浜田	9. 津和野
8. さぎの湯	6. 木次おろち	3. 湯ノ川	6. 邑智町	3. 有福温泉	10. 津和野
9. 広瀬町	8. 赤来町	18. 美人の湯	12. 石見町	5. 金城町	11. 柿木村温泉
11. 五箇村-(1)	11. 吉田村	4. いちじく温泉	15. 池田ラジウム	6. 美又温泉	14. 津和野
18. 五箇村-(2)	12. 仁多町	5. 湖陵 1		7. 金城町	16. 荒磯温泉
12. 海士町	13. 横田町	6. 湖陵 3		10. 浜田市	17. 野坂(山口)
13. 美保関	14. 宍道町	17. 湖陵 2		11. 上津井	20. 大谷・益田
17. 松江		7. 佐田町			
		8. 出雲駅南口			
		10. 北山温泉			
				(7)	
				2. 弓ヶ浜	
				12. 弓ヶ浜	

陰イオンによる泉質分類

- I (Ca+Mg) SO₄+Cl型
 II (Ca+Mg) HCO₃型
 III (Na+K) Cl+SO₄型
 IV (Na+K) HCO₃型



トリリニアダイヤグラムによる泉質表示

泉質タイプの分布

(島根県東部)

(低い) ————— C l ————— (高い)
 (高い) ————— S O₄ ————— (低い)

雄火山性型 グリーンタフ型 深部熱水型

玉	平	湯	松	嫁	五	北	美	海	弓	湖	出
造	佐	成	美	の	江	ケ	さ	箇	い	山	浜
田	人	川		島	ヶ	さ	箇	い	山	浜	湯
廣	横	の		島	ぎ	箇	い	山	浜	保	士
瀬	田	湯		島	ち	い	山	浜	湯	ケ	陵
				の	鹿	い	山	浜		駿	
				島	じ	い	浜	保			
				く	の	い	保	士			
					鹿	い	士				
					島	く					
							(1)	津			
							(2)				

